

## 12. グループ・メヒコ社(Grupo Mexico SA de CV)

### 1. 企業概要

本社	メキシコ・メキシコシティー
主要事業	非鉄金属鉱山・製錬、鉄道
従業員数	21,409 人
決算日	12 月末日
主要関連会社	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アサルコ社 (Asarco Inc.: 100%)</li> <li>・ GMM 社 (Grupo Minero Mexico SA: 98.91%)</li> <li>・ SPCC 社 (Southern Peru Copper Corp.: 54.2%)</li> </ul>

### 2. 財務状況 (peso million)

	2002 年	2001 年	2000 年
売上高 Ventas netas	18,921	27,650	35,013
当期利益 (Pérdida) utilidad neta consolidada del año	(648)	(2,579)	3,349
資産 Activo	85,987	78,952	83,540
流動資産 Activo circulante	14,094	11,483	15,151
負債 Pasivo	55,800	48,022	48,703
流動負債 Pasivo circulante	16,108	14,688	11,773
株主資本 Inversión total de los accionistas	30,187	30,930	34,836
探鉱費 Exploration expenditure (US\$ million)	14.5	17.5	32.5

### 3. 主要鉱産物の生産・開発状況

#### 主要鉱産物の生産推移<sup>1</sup>

	2002 年	2001 年	2000 年	2002 年の 世界シェア
銅鉱石 (000 t)	849.6	890.4	915.0	6.4 % (3 位)
亜鉛鉱石 (000 t)	142.4	194.8	224.6	1.5 % (15 位)
鉛鉱石 (000 t)	29.2	38.2	87.8	0.6 % (23 位)
金 (kg)	959	1,138	1,312	-
銀 (t)	609	687	743	3.5 % (4 位)
モリブデン (000 t)	11.7	13.9	15.8	9.6 % (3 位)
銅地金 (000 t)	854.8	1,039.9	1,002.3	5.6 % (4 位)
亜鉛地金 (000 t)	92.0	107.0	105.9	1.0 % (24 位)

### 4. 沿革

グループ・メヒコ社の前身である IMMSA 社 (旧社名 ASARCO MEXICANA 社) は、65 年、アサルコ社のメキシコ資産を分離して設立された。99 年、グループ・メヒコ社は、アサルコ社とサイプラス・アマックス社 (Cyprus Amax Minerals Co.) をめぐる激しい合併・買収合戦を繰り広げ、グループ・メヒコ社がアサルコ社、フェルプス・ドッジ社がサイプラス・アマックス社を買収することで決着したが、この結末は歴史的に見れば、グループ・メヒコ社にとって親会社と子会社の立場を逆転した再合併ということになる。

1899 年、米国に設立されたアサルコ社 (American Smelting and Refining Co. : 1975 年に Asarco Inc. と社名を変更) は、1901 年にいち早くメキシコにおける鉱山経営を開始した。

<sup>1</sup> 銅鉱石、亜鉛鉱石、鉛鉱石、銀の 1999 年の生産量には、アサルコ社買収後のアサルコ社の生産分を含む。モリブデン、銅地金、亜鉛地金の 1999 年の生産量は、アサルコ社分を含まない。

第二次大戦後、自社製錬所の鉱石確保と戦後の銅需要拡大に対応するため、また鉱山業の高い収益性を背景として本格的に鉱山開発に進出、52年、フェルプス・ドッジ社などと共にペルーにおける鉱山開発の拠点として SPCC 社を設立し、メキシコ資産と併せて中南米での基盤を確立した。

しかし、61年から始まったメキシコ鉱業の国有化・民族化の動きに巻き込まれ、65年、メキシコ民族資本51%の ASARCO MEXICANA 社がアサルコ社のメキシコ資産を分離して設立された。同社は74年に IMMSA 社 (Industrial Minera Mexico SA de CV) と社名を変更し、アサルコ社の権益は34%に縮小した。さらに78年、Mexican Controlling Group によって100%メキシコ民族資本の持ち株会社 GIMM 社 (Grupo Industrial Minera Mexico SA de CV) が設立され、アサルコ社は GIMM 社の子会社として新たに設立された MEDIMSA 社 (GIMM 社権益 68.8%、アサルコ社権益 28.3%) に権益を封じられることとなった。

その後、GIMM 社は88年の公開競売によってメキシコ政府から Mexicana de Cobre の権益 92%を取得、90年に Mexicana de Cobre と Acec Union-Minere のコンソーシアムにより Mexicana de Cananea の権益を取得するなど積極的な事業展開を図り、94年には新たに持ち株会社 グループ・メヒコ社 (GIMM 社権益 74%、アサルコ社権益 23.6% (当時)) を設立して MEDIMSA 社をその傘下においた。さらに97年、経営体質強化を目的として旧メキシコ国有鉄道 Pacifico-Norte railways および Chihuahua-Pacifico railways の経営権を取得し、事業の多角化を図った。

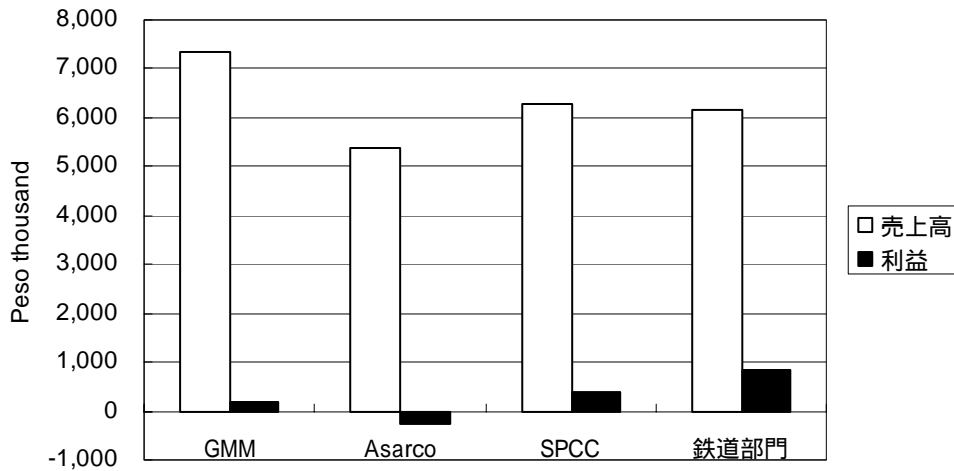
グループ・メヒコ社とアサルコ社の関係は、97年にアサルコ社がグループ・メヒコ社の権益を全て売却することでいったん途絶えたが、98年にグループ・メヒコ社がアサルコ社の権益 9%を取得、そして99年、同社はアサルコ社を100%子会社化するに至った。

2000年12月、鉱業部門のグローバル化や鉄道部門の分離、財務上の理由などから、新グループ・メヒコ社 (Nueva G. México, S.A. de C.V.) を設立し、旧グループ・メヒコ社の株式を全て新グループ・メヒコ社に移した上で、グループ・メヒコ社 (Grupo México, S.A. de C.V.) に名前を変更した。旧グループ・メヒコ社は Minera México, S.A. de C.V. となり、メキシコの鉱業部門の親会社となった。

## 5. 事業内容

グループ・メヒコ社の鉱業部門は、2000年末に米国に設立した子会社アメリカ・マイニング社 (Americas Mining Corporation: AMC) の傘下に、Minera México 社、アサルコ社、SPCC 社を置き、事業を展開している。Minera México 社はメキシコの税務関係の都合上残されているものと考えられ、同社の下に Grupo Minero México 社 (GMM 社) が置かれており、GMM 社は、IMMSA 社 (Industrial Minera Mexico SA)、Mexcobre 社 (Mexicana de Cobre SA)、Mexcananea 社 (Mexicana de Cananea SA) において、事業を実施している。また、Grupo Ferroviario Mexicano 社 (GFM) を通して旧国有鉄道の経営に参画している。

2002年部門別売上高と利益



利益は Consolidated net profit

(1) 銅

メキシコ (GMM 社)、米国 (アサルコ社)、ペルー (SPCC 社) において、銅鉱山の経営及び製錬事業を行っている。

GMM 社には、IMMSA 社がチャルカス (Charcas)、サンタ・バルバラ (Santa Bárbara)、サン・マルティン (San Martín) の 3 鉱山及びサン・ルイス・ポトシ (San Luis Potosí) 溶錬所を有し、Mexcobre 社がラ・カリダー (La Caridad) 鉱山及び製錬所、Mexcananea が、カナネア (Cananea) 鉱山を有している。

アサルコ社はアリゾナ州に複数の鉱山からなるミッション・コンプレックス (Mission Complex)、レイ鉱山、シルバー・ベル鉱山を有し、ハイデン溶錬所で粗銅を、アマリージョ製錬所で銅地金を生産している。

54.2%の権益を有する SPCC 社は、首都リマの約 1,000km 南東にトケパラ (Toquepala) 鉱山及びクアホネ (Cuajone) 鉱山を経営している。また、太平洋沿岸の都市イロ (Ilo) に製錬所を有している。イロ製錬所では、トケパラ、クアホネ鉱山の精鉱のほか、買鉱鉱石も製錬している。

2002 年主要権益保有鉱山による鉱石生産

オペレーション名	権益 %	鉱量 百万 t	タイプ	品位	生産量
ラ・カリダー (メキシコ) La Caridad	94.6	1,323.3	OP	0.34%	111 千 t
IMMSA (メキシコ) IMMSA	100	68.3	UG	0.48%	25 千 t
カナネア (メキシコ) Cananea	98.5	5,000.4	OP	0.41%	137 千 t
ミッション・コンプレックス (米国) Mission complex	100	196.0	OP	0.59%	37 千 t
レイ (米国) Ray	100	858.5	OP	0.51%	173 千 t
シルバー・ベル (米国) Silver Bell	100	310.9	OP	0.27%	20 千 t
トケバラ (ペルー) <sup>2</sup> Toquepala	54.2	2,373.0	OP	0.34%	178 千 t
クアホネ (ペルー) Cuajone	54.2	1,12.7	OP	0.63%	168 千 t

2002 年主要権益保有製錬所及び鉱山による地金生産

オペレーション名	権益 %	粗銅生産量 千 t	地金生産量 千 t
ラ・カリダー SX/EW (メキシコ) La Caridad SX/EW	94.6	-	19
ラ・カリダー製錬所 (メキシコ) La Caridad Smelter/Refinery	94.6	237	200
サン・ルイス・ポトシ溶錬所 (メキシコ) San Luis Potosí Smelter	100	24	-
カナネア SX/EW (メキシコ) Cananea SX/EW	100	-	50
レイ SX/EW (米国) Ray SX/EW	100	-	42
シルバー・ベル SX/EW (米国) Silver Bell SX/EW	100	-	20
ハイデン溶錬所 (米国) Hayden Smelter	100	170	-
アマリジョ精錬所 (米国) Amarillo Refinery	100	-	189
トケバラ SX/EW (ペルー) Toquepala SX/EW	54.2	-	53
イロ製錬所 (ペルー) Ilo Smelter/Refinery	54.2	314	282

- ・ アサルコ社が保有していた SPCC 社の 54.5%の権益はアサルコ社の財務改善のために、親会社である AMC に 2003 年 4 月に売却された。この売却にあたっては、米国司法省が、優良資産の売却によりアサルコ社がこれまで操業してきた鉱山の環境対策を行う能力がなくなることを理由に売却に難色を示していた。
- ・ SPCC 社は、1996 年から拡張・近代化計画 (Expansion and Modernization Program) を実施中で、同社の銅生産能力を 2004 年までに 40 万 t 以上 (900 百万ポンド以上) にあげることを計画している。これまでに、クアホネ鉱山で選鉱場の拡張により、130 百ポ

<sup>2</sup> クアホネ鉱山の浸出液はトケバラ鉱山の SX/EW プラントで処理されており、トケバラ鉱山の生産量にこの分が含まれている。

ド/年の銅生産能力の拡大（1999年、245百万US\$）、トケパラ鉱山のSX/EW設備の拡張（第1期：1999年、第2期：2001年）、トケパラ鉱山の選鉱場の拡張（2002年、処理69.5百万US\$）などが終了している。なお、トケパラ鉱山の選鉱能力の増強により、イロ製錬所への精鉱は全て自山でまかなえることとなる。

- ・クアホネ鉱山のリーチング設備の拡張工事は2002年4月に完了した。また、SPCC社はペルーの環境規制に対して提出した環境適正化計画（PAMA）に則り、イロ製錬所の環境対策を実施している。当初の適正化計画では2003年までに第1期工事を終え、2007年までに第2期工事を終えるとしていたが、計画は遅れており2003年7月にエンジニアリング会社を選定し、2007年までに工事を完了させるとしている。

## (2) 鉛・亜鉛

IMMSA部門及びアサルコ社がグループ・メヒコ社の鉛・亜鉛を生産している。

IMMSA部門では、銅も生産しているチャルカス（Carcas）、サンタ・バルバラ（Santa Bárbara）、サン・マルティン（San Marín）の各鉱山のほか、鉛・亜鉛鉱山であるタスコ（Taxco）鉱山を保有する。なお、サンタ・エウラリア（Santa Eulalia）、ベラルデーニャ（Velardeña）、ロサリオ（Rosario）の各鉱山は2000年10月から操業停止している。

また、アサルコ社の所有する米国テネシー州のインメル（Immel）、ヤング（Young）、ニュー・マーケット（New Market）、コイ（Coy）の各亜鉛鉱山は2001年11月に閉鎖されている。

2002年主要権益保有鉱山による亜鉛鉱石生産

オペレーション名	権益 %	鉱量 百万t	タイプ	品位	生産量
チャルカス（メキシコ） Charcas	100	17.1	UG	5.57%	68千t
サンタ・バルバラ（メキシコ） Santa Barbara	100	25.8	UG	3.38%	37千t
サン・マルティン（メキシコ） San Martin	100	13.5	UG	3.48%	26千t
タスコ（メキシコ） Taxco	100	6.8	UG	6.92%	11千t

2002年主要権益保有製錬所による亜鉛地金生産

オペレーション名	権益 %	粗金属生産量 千t	地金生産量 千t
サン・ルイス・ポトシ製錬所（メキシコ） San Luis Potosí Refinery	100	-	92

## 6. 探鉱戦略

### (1) 概要

グループ・メヒコ社の探鉱活動は、他の鉱業活動と同様に2000年末に米国に設立した子会社アメリカ・マイニング社（Americas Mining Corporation: AMC）を通して行われている。

2002年の探鉱費はUS\$14.5百万で、主要非鉄金属企業中第27位であった。

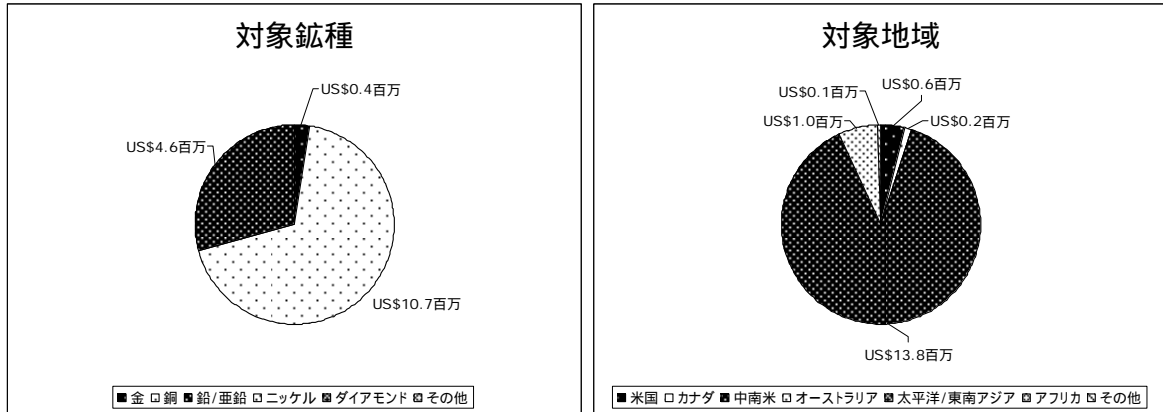
### (2) 対象鉱種

グループ・メヒコ社の探鉱はベースメタル、特に銅を中心としたもので、銅鉱床の探鉱に全体の68%が充てられている。

(3) 対象地域・探鉱段階

グループ・メヒコ社の探鉱は中南米地域が中心であり、全体の 88% を占める。

探鉱段階に関しては、2003 年の探鉱予算はグラス・ルーツに US\$7.7 百万 (49%)、事業化調査に US\$6.4 百万 (41%)、鉱山周辺探鉱に US\$1.6 百万 (10%) を充てている。



2003 年の探鉱予算

(4) 最近の動向

(メキシコ)

グループ・メヒコ社は、メキシコ全土でターゲットの探索を行っている、また、カナネア鉱山近辺の Buenavista 多金属鉱床 (鉱量 36 百万 t、33% Zn、0.69% Cu、29 g/t Ag)、ミチヨアカン州の Anganguero 鉱床 (鉱量 13.3 百万 t、1.10% Cu、3.5% Zn、0.75% Pb、0.17 g/t Au、248 g/t Ag) などの探査ステージが進んでいるプロジェクトもある。

(ペルー)

開発に近いプロジェクトとして、Los Chancas 銅鉱床 (鉱量 200 百万 t、1.0% Cu、0.07% Mo、0.12g/t Au) や Tantahuaty 銅-金鉱床 (SPCC 社権益 44%、鉱量 31.2 百万 t、0.78g/t Au、9.5 g/t Ag) の探鉱が進められている。

(その他)

チリ、オーストラリア、アイルランドで探鉱を実施している。